

定例記者会見

日時 令和5年8月24日(木)

午後1時から

場所 市役所3階 大会議室

1 市長あいさつ

本日は、お集まりいただき大変ありがとうございます。また日頃から越前市の報道について様々ご協力いただきありがとうございます。

先日の台風7号は、直撃するのではないかと不安でしたが、結果としては、少しずれたとはいえ、鳥取県や京都などでは大きな被害があり心を痛めているところです。あの時も早い段階から対応しようということで、13日にはもう打ち合わせをして、花火大会の延期も決め、自主避難場所開設の準備をしました。早め早めの対応で、空振りを恐れず事前の準備をして、最悪を想定するというので、災害対策本部の職員が集まって準備をして、結果的には被害もなかったということで安心しているところです。

越前市は地震の経験がないので、地震についてちょうど福井大震災から75年、関東大震災から100年ということで、地震の準備をしようということで、昨日も地震の専門家を招いて、越前市における地震がどうなるのかという勉強を進めたところです。

この建物の下は、地盤が強いので、皆さんもここにいれば、安全。私の家は今立なので、備えをしっかりやっていきたいなと思っています。

そういう意味では、災害準備や災害の対応については、皆さんと力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

2 発表項目

1 令和5年度9月補正予算(案)の概要(資料2)

まず今年度の補正予算は、いよいよ、北陸新幹線が開業するというので、予算としては、二次交通の利便性向上、観光地やお土産の磨き上げ、そして文化力向上の取り組みにつきまして、これまでもやって参りましたが、それを加速させること。

そして、結婚・出産・子育て応援、子育て環境の充実、これは県の6月補正予算もありましたので、それと連動する部分が多くあります。

それから、災害対応、まず被害が出てるところの復旧等、或いは地域の防犯強化、これも県と連動するものでありますが、そういった予算を計上しているところであります。

また、繰越金が確定したということで、財政調整基金に積立てるという予算も組み込んでいます。

総額としては一般会計7億5968万2000円の補正で、これは令和元年度以降の取り組みとしては、補正規模として最大になります。補正後の予算額は383億5968万2千円で、補正額7億5968万ですけれども、民間の部分を足しますと事業規模全体としては8億4700万円となります。

資料にありますように、国や県の交付金、或いは財源措置の高い地方債を活用し、さらに財政調整基金に積立てることによって、健全財政を維持しながら予算編成をしております。

まず5ページ目でございます。これは新幹線そのものというよりは新幹線の開業に伴い、並行在来線に新駅が武生商工高校のところにできますので、その広場を整備するための用地取得ということで、今回計上しております。

今、新しい駅名を募集してるところですが、なるべく地元の人が愛着をもってもらえるような名前にしたいということで準備をしております。令和7年春の武生商工高校の完全キャンパス一体化のタイミングで新駅をつくる事業です。

6ページは紫式部関係であります。これまでも紫式部関連の商品開発等をしようということでこれを応援する予算を持っておりました。商品開発については7月31日まで、パッケージについては12月までで申請を受け付けていましたが、商品のお披露目をやったり或いは商品開発のセミナーなどを開催したところ、非常に関心が高まり、うちもぜひやりたいという声が多かったことから、せっかくそういう声が上がってきたのをしっかりと応援したいということで、その募集枠を拡大するための予算をもたせていただきました。

予算が議決されましたら、二次募集を行って、新幹線開業まで、開業後も来られた方にそういった商品を提供できるように準備をしたいというものであります。

次は7ページで、年明けの2月に大河ドラマ館ができますので、中央公園からずっと繋がって、式部公園とゆかりの館一体を来られた方が歩いていただきたいなと思っています。紫式部公園、或いはその隣にあります、ゆかりの館でそのプレイベントという形で今回は予算を持たせていただきました。

当初予算でも、紫ゆかりの館の指定管理者であるオーイングさんへの委託料の中でイベント経費を持ってんですけども、さらにもうちょっと若者に来ていただけるようにイルミネーションなどを拡大したいということで、補正して積み増しをします。イルミネーション、ライトアップ、雅楽や舞楽などのコンサート、或いは平安時代の食事とか暮らしとか遊びの展示、お香の歴史と体験、和紙ランプづくりなどのワークショップをやるような予算を持たせていただいて、機運醸成を図ります。

次は、8ページ、レンタサイクルの導入です。現在、市の観光協会が有人で貸し出しをしています。すでに福井駅や敦賀駅は、大規模な無人貸出をスタートさせています。今回はそれほど大規模ではありませんけれども、通常の自転車14台と電動自転車6台の計20台を、新幹線の新しい駅と今のJRの駅にまず設置して、二次交通とまではいきませんが、こられた方が自転車でめぐるようなことが、気軽にできるように、そういう貸し出しをスタートさせようというものです。

次は、9ページです。新しい制度を設け、クリエイティブ拠点整備支援のための支援事業をスタートさせます。クリエイターとかアーティスト、研究者など、クリエイティブな人たちが集まって活動する拠点を作る時にこれを応援しようというものです。

新しい付加価値を生み、ブランド力向上を図るというような制度を作るわけですが、今回のこの予算は、その中で、国際木版画ラゴ、現在、山梨県富士河口湖町にある活動拠点が栗田部の街中の空き家に移転することになりました。

これは市と福井県和紙工業協同組合が共同して働きかけを続けてきたところですが、河口湖から今立地区に移転をする、その移転場所の空き家を整備する予算を応援するということがあります。組織名としては、一般社団法人産業人文学研究所、これは主に国際的な水性木版画アーティストやその教育者を養成しているところです。来年度早々に、国際木版に関する国際会議をやるということで、外国から100名程度が来られる予定ということでありますが、今回この国際木版画ラボには、定例的にアーティストインレジデンスをやるための拠点を作って、これは毎年50人ずつぐらいが、木版画の勉強にくる場所をつくる、事務局機能と勉強する場所を作るというのが、この工芸の里構想の中の和紙の里今立て栗田部に拠点を作るといったものであります。50人ぐらいがこれから毎年来るようになります。

次は子育てと若者の結婚支援、これはいずれも県が予算化したものを、県と一緒に実施するものであります。まず18歳未満の子どもを育てている世帯に対して、子ども1人当たり1500円のデジタル地域通貨を発行するための準備、それから、若い世代の結婚を後押しするというので、夫婦ともに39歳で、いずれかが29歳に県の制度が拡充したことに伴うものです。

本市では18歳未満の子育て世帯は7200世帯、子どもの数は1万2000人ほどです。その世帯にデジタル地域通貨を発行するためのQRコードを送付する郵便代です。結婚支援の方は、大体年間65世帯を想定しています。

それから同じく、子育て支援ですが、これは新しく小規模保育事業所というのが設置されます。これは市が認可して、定員19人以下0歳から2歳児までの保育を行う施設を国高地区、ここは、今新しい家がどんどん建って若い世代が多いので、そこに結構ニーズがあるので、そこに福井の民間企業が、そういった施設を建設するという意向をおっしゃっておられるので、この整備を応援するものです。

既存の建物があるのですが、改修し、0歳から2歳児まで、それぞれ6人の合わせて18人分の施設について令和6年4月の開所を目指します。

次に吉野地区の公立認定こども園の整備です。家久保育園と吉野小学校の間ぐらいの場所に、公立の新しい認定こども園を整備しようというものです。これも話題になっておりますが、当初予算で造成測量の予算を持っておりましたが、場所が決定したということでその場所で地質調査、造成の設計、基本設計実施設計、設計監理業務等を行うための予算をもとというものです。特にこの吉野地区はどんどん新しい家が建って、小さいお子さんが多い場所です。また、もともとありました、家久保育園、吉野幼稚園は施設が老朽化していますので、この二つを統合して、認定こども園の整備を進めるところであります。

最終的には令和9年の4月の開園を目標にして、そこに向かって整備を進めていきます。当初、令和8年4月という話でしたが、西こども園が1年、入札の関係で遅れたこともあり、その分、後ろ倒しになっています。その他、交通関係とか、農業用水関係の調査をした結果も踏まえとして、確実に整備ができる令和9年4月を目標として設定してそれに向けて、いよいよ動き出すということです。

次は13ページの妊娠・出産包括支援事業。これは、県の6月補正予算で、妊娠の届け出、出産後にそれぞれ5万円を給付するというので、令和4年度の10月補正予算で、9月

分までの予算を現金給付により持っていました。これが、県の6月予算において、デジタル通貨を使ったら、5%、2500円上乗せするという制度が作られましたので、これに合わせて、10月から来年3月分までの上乗せ部分の補正予算をもちました。予算の規模、数としては、大体1年間で600人を想定しています。

14ページ目は防犯カメラの設置ということで、これも県が6月補正予算で支援制度を作りましたので、補正するものです。越前市においては整備が進んでおり、117台の防犯カメラが設置されているわけですが、自治振興会との協議、警察と相談しまして、今回、構築について予算化をしました。

15ページ目の災害復旧関係では、6月、7月の大雨で、いくつか施設等が破損しましたので、改良・修繕・復旧を行うものです。また次の台風がいつ来るのかわかりませんので、早く対応したいというものであります。

最後に財政調整基金。これは繰越金の半分を積み立てるというルールになっていますので、当初予算で11億8,000万円を取り崩したため、基金残高の見込みは11億3,036万円であったが、今回の積み立てにより年度末残高は16億8,936万円になる見込みです。

なお、これ以外に今話題となっております、物価高騰やガソリンの対応ですが、国・県・市の対策が継続していることから、9月補正予算案では新たな対策は計上していません。いろんなご要望が農業関係も産業関係もあると思いますが、今回は少し様子を見るということで、今後、国の動向、或いは経済の状況、市民の皆さんの声をお聞きしながら、次の補正予算で対応するというような考えでおります。

2 越前国府発掘調査について(資料3)

9月1日に9月から10月までの2か月間の発掘調査におけるキックオフ、スタート式を国府一丁目の本興寺で行います。

ボランティアの皆さん、「越前国府見つけ隊」というのを募集しまして、現在、39名の方が参加するというので、その方々も、開始式には出ていただけるということであります。そのあと住民で調査しようということで、私もストップか何か道具を持って、掘らせていただこうと思っています。

ボランティアの皆さんは、ほとんど知識の豊富な方ばかりでいらっしゃいますけど、事前に研修を受けて、発掘の準備を行っていたところであります。

国府の勉強をやろうというようなことで、盛り上がっておりますし、先日は今立地区の国中で、今立郡が出来てちょうど1200年ということで、郡の跡が残っていないか、小学生の皆さんが、田んぼなどを掘りました。

須恵器は結構出てきたとのことですが、須恵器に字が書いてあるとすばらしいのですが、字は出てきませんでした。

郡というのは、国府との関連がありますからそういった歴史を自分たちの地域の誇りとして、探そうとか見つけようとかいうようなそういった動きが出てきています。

何とか見つけたいなというふうに思っています。ただ、1年だけではありませんので、継続してやっていこうと思っておりますし、他の場所でもそういう動きが出てくるのではないかと期待をし

ているところであります。一つの盛り上げが紫式部であり、新幹線であり、その盛り上げの期間のプロジェクトとして、真剣にそして楽しみながらやりたいと思っています。

3 越前モノづくりフェスタ2023

武生商工会議所 渡辺総務課長から説明

4 質疑応答

【質疑】クリエイティブ拠点整備支援ですが、新しく設けられた制度ということで、制度自体の狙いとどのように活用してほしいかをもう少し教えていただきたい。

【回答】具体的な策としては、木版画協会の拠点をつくるということがきっかけですが、もともと新幹線の駅前なり、或いはいろんな伝統工芸の産地なりに、できるだけ多くのデザイナーや職人など、いろんなクリエイティブな人たちが集まる場所に、この越前市をしたいなっていうふうに考えていたところです。文化県都宣言や創造都市ネットワークの考え方に基づくものであります。

ですから、まちなかもそうですし、それぞれの伝統工芸の産地もそうです。そういった所にアーティストインレジデンスと言われますけども、ずっと滞在する場合もあるでしょうし、いろんな所に行き来できるようなところをしたいという思いがあり、単発ではなくて、制度を設けて、それによって、企業誘致的な人の動きをやっていきたいというのがベースにあります。

先日、まちなかのシェアオフィスで、アクティブ8さんがオフィスを構えた、ああいうものも同じですし、まちなかの空き家活用の中でも、こういう制度を使ってそういうアーティストクリエイターが来てもらうようにしたい、その第一弾ということです。

【質疑】新幹線かがやきの停車を要望しているところですが、JR西日本の方との話も踏まえ、今現在、どのような見通しを持っていますか。

【回答】特にリアクションがある訳ではないので、おそらく来年発表するまではわからないのではないかなというふうに思います。見通しというよりは、私たちの期待というふうなことしか言えない。

ただ、JR西日本にとっては、やはり新幹線の開業効果が大きくなるのが、敦賀以西にとっても大事ですし、少しでも東海道新幹線ではなくて、北陸新幹線をみんなが使うこと、来る人もそうですし、出て行く人もそうですけども、使われることが当然、営業収益っていか運賃収入の拡大にも繋がるわけで、そこは私たちと利害が一致する、利益が一致するっていうふうに思っています。

そうしたことを考えるときには、やはり敦賀以西が前に進むこともJR西日本にとって重要なことでありますので、そういうトータルな観点で、地元の要望っていうよりは、同じような利益を共有できるので、1本も停まらないとか全部停まるとか、そういう話ではなくて、一番いいような形、バスや利用者の利便が高まるようなことについては、対応いただけるのではないかなというふうに期待をしているところです。

そのことは、越前市だけではなくて、丹南地区の住民にとっても、福井の南側の人にとっても、駐車場が600台分無料であるという非常に利便性の高い場所です。福井はなかなか周りに車を置くのも大変でしょうし、電車を降りてから、二次交通に乗り換えるのも難しいので、どこへ行くにしても、武生のインター周辺ってというのは、利便性が高いなど、結果的に見てもいえると思うので、そこを理解いただければ、説明した時はそれを強くお話しましたから理解していただけるのではないかと考えております。